

平成24年度第1回静岡市環境審議会 会議録

1 日 時 平成24年7月27日(金) 15時00分～16時10分

2 場 所 静岡市役所 静岡庁舎 本館3階 第1会議室

3 出席者 (審議会委員12名) ※敬称略

会 長 岩堀 恵祐 (静岡県立大学環境科学研究所教授)

副会長 杉山 涼子 (富士常葉大学社会環境学部教授)

委 員 久留戸 涼子 (常葉学園大学教育学部准教授)、丹沢哲郎 (静岡大学教育学部教授)、成田尚史 (東海大学海洋学部教授)、伊東正喜 (市民公募)、井上 登 (市民公募)、兼高 里佳 (NPO法人しずおか環境教育研究会理事)、滝 早苗 (しずおか市消費者協会理事)、伊藤雅淑 (静岡市環境保全推進協力会運営委員長)、井口 泰行 (国土交通省静岡河川事務所長 (代理出席))、大島 広美 (静岡地方気象台長)

(事務局職員)

杉山環境局長、小林環境創造部長、長澤環境創造部理事

(環境総務課) 小林課長、清参事兼統括主幹、青嶋参事兼統括主幹
梶山統括主幹

(清流の都創造課) 浅井課長

(環境保全課) 松田課長

(環境保健研究所) 鈴木所長

4 傍聴者 0人

5 次 第

(1) 開 会 (司会：環境総務課 清参事兼統括主幹)

(2) 環境局長挨拶

(3) 審議 (報告事項) (進行：岩堀会長)

①中央新幹線環境影響評価方法書に対する他都市の意見の状況

②静岡市環境基本計画の進捗状況について

③エネルギー政策に関する国等の動向について

(4) その他

①気候変化レポート2012について (静岡地方気象台)

②地球温暖化に関する国際的な動向について (COP17、IPCC第5次評価報告書)

③次回の審議会について

(5) 閉会 (司会：環境総務課 清参事兼統括主幹)

1. 審議（報告事項）

（1）中央新幹線環境影響評価方法書に対する他都市の意見の状況

【事務局説明】

- ・これまでの対応状況
- ・関係都県の知事意見の概要とポイント
- ・今後スケジュール

【質疑応答】

○岩堀会長

静岡県知事意見では、市長意見からトーンダウンした感じはあるが、内容は網羅していただいたと思っている。

○久留戸委員

山梨県では「住民意見への配慮」に対する意見が出されていないがその意図は。

○環境総務課 小林課長

山梨県知事意見なのでコメントはできないが、既に実験線が通っていることも影響しているのではないか。

○滝委員

市長意見に対する事業者からの回答はいつ頃あるのか。

○環境総務課 小林課長

- ・環境影響評価法に基づく手続では、次に準備書が提出される。
- ・準備書は平成24年の年末以降に出されると思われる。
- ・現段階では、路線や斜坑の位置等の具体的な内容が示されていないため、準備書前に示し協議するよう市長意見を提出した。
- ・事前協議については、早ければ平成24年冬頃を見込んでいるが、事業者からのコンタクトは今のところない。

○岩堀会長

新しい情報があれば、随時審議会に報告して下さい。

（2）静岡市環境基本計画の進捗状況について

【事務局説明】

- ・環境基本計画の環境指標に掲げている各種事業の進捗状況について
- ・計画達成の見込み等

【質疑応答】

○井上委員

目標の達成状況は、「－」ではなく「△」や「×」で表現した方が良いのではないか。また、達成見込みの事業については、現段階では「－」で表記すべき。

○環境総務課 小林課長

平成 26 年度の目標値であり、各年度の目標値は設定していないため、「－」表記とした。

○岩堀会長

計画期間中における年度毎の評価は難しい面もあるが、数値目標であれば、具体的に評価するのが望ましい。

○大島委員

- ・「－」の区別が分かりにくい
- ・「/年」の目標については、今年は達成しているが、次年度は達成するとは限らないため、「○」の信頼性が不明
- ・書き方を注意しないと誤解を招くことになる。

○久留戸委員

再生利用率について、古紙回収を来年度からは地域の集団回収に任せるとしているが、もっと行政で推進していかなくて良いのか。

○杉山環境局長

- ・静岡市では、古紙価格の下落によって市場原理による民間での回収が困難となったため、平成 11 年度から行政回収を始めた。
- ・現在、古紙価格の回復に伴い、集団回収への移行を進めているが、将来古紙価格が下がった場合の対応など、課題もある。
- ・自治会等の意見を聞きながら進めて行きたい。

○兼高委員

- ・エコライフ宣言について、計画策定時と平成 23 年度の実施数だけを見るとかなり増えているように見えるが、計画策定時には学校での実施数は含まれておらず、現在の実施数には学校での実施数が含まれている。市民への実施数だけを見れば決して増加しているとは言いきれない。
- ・環境教育としての実施は重要だが、計画策定時と同じ実施数のカウント数値の取り方により評価すべき。
- ・「市民参画と環境教育の推進」という基本目標を鑑みれば、学校と市民へ実施数を年間 10 万人といった高い目標を掲げていただきたい。
- ・環境教育の現場（チャレンジシートの実施状況）も見ていただきたい。

○環境総務課 小林課長

- ・エコライフ宣言は、計画策定当時、出前講座等の後に参加者に実施していたものであり、その内容は現在のチャレンジシートと同じ内容のものだった。
- ・より多くの方に参加していただけるように、平成 20 年度からチャレンジシートに切り替えを行ってきた。
- ・最近では、教育委員会の協力や自主的な取組もあり学校での実施数が増えているが、学校以外でも市内事業者や環境イベント等でも実施し、多くの市民の皆さまに参加していただいている。
- ・チャレンジシートの目的は、温暖化防止行動に気付いていただくことと実践していただくことであり、対象者に関わらず多くの方に参加していただくことが重要だと考えている。

- ・目標値の見直しについては、計画の更新時に検討していきたい。

○井上委員

ISOとエコアクション（EA）の仕切りをどのように考えているか。

○環境総務課 小林課長

・ISOは国際規格であり、国際取引をするためには取得が必須となっていた。システムは良いがコストが高いのがネックとなっている。

・そこで、環境省が国内版の環境マネジメントシステムとしてエコアクション制度を構築した。

・ISOは大企業向け、EAは中小企業向けとして整理している。

(3) エネルギー政策に関する国等の動向について

【事務局説明】

- ・国の温暖化対策への対応
- ・エネルギー基本計画の見直しと3つのシナリオ
- ・今後の予定

【質疑応答】

○伊東委員

原子力発電所の是非に関する議論においては、環境面で見れば二酸化炭素のみを考えるのではなく、温排水等の問題も含めて考えるべき。

2. その他

(1) 気候変化レポート2012について

【大島委員（静岡地方気象台長）説明】

- ・気候変化レポート2012の発刊について
- ・内容の一部紹介

【質疑応答】

意見等なし

(2) 地球温暖化に関する国際的な動向について（COP17、IPCC第5次評価報告書）

【事務局説明】

- ・地球温暖化対策に関する国際交渉の流れ
- ・COP17の成果と日本の対応
- ・気候変動に関する政府間パネルについて

【質疑応答】

意見等なし

(3) 次回の審議会について

【事務局説明】

・11月～12月頃に開催予定

3. その他意見

○伊東委員

・古紙回収について、集団回収は自治会にとって貴重な財源にもなっているため、今後も行政の支援をお願いしたい。

・IPCC 報告書は、以前誤りが発表されどこまで信用して良いものか不安になる。今後、行政としても検証されてはどうか。

以上、審議・報告事項終了。

上記内容を確認しました。

静岡市環境審議会会長

岩塚 恵祐